八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 石油発動機	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:
- ☐ 人力用具 ☐ 手押式 ☐ 耕耘用 ☒ 調製用
- ☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類
- ☒ 原動機具 ☐ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素
- ☐ トラクタ具 ☒ 定置式 ☐ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y205

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 久保田鉄工㈱

製造市・国名 大阪

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

農用の定置型原動機　　エソジン：発動機は、第１次大戦で欧州農業が荒らされて日本農業が好況になったため、1916～1922(大正5～12)年に機関回転数500rpm以下の低速水冷石油機関であるアルファ，ゼット，ウィッテなどの石油発動機が多数輸入されたが、1921年頃からクボタ、カドタ、トバタ、ヤンマーが国産発動機を出荷して輸入品を駆逐した。また、1933年にヤンマーH型ジーゼルエンジンを開発して独自の道を拓いた。一時停滞して第2次大戦後は、軍需産業会社が耕耘機開発に平行して1000～1200rpmの中速(農機の駆動時に高いトルクを発揮できる)の灯油エンジンの道を拓き、これにハイオク灯油エンジンとジーゼルエンジンが加わって多様化した。　→利用経過欄に続く

利用経過収集記録意義等

なお空冷エンジンは、1925年ごろにオートバイ用を流用した機種が輸入されたが、定置作業時にオーバーヒートして普及せず、戦後に航空機の経験を有する会社が農用4サイクル空冷ガソリン機関を出荷して始まった。1955年ごろには背負式防除機や田植機用に２サイクルガソリン機関、同時に高馬力低コストの空冷ジーゼル機関が登場して今日につながった。

仕様書_解説等

仕様未調査

型式名を知りたい

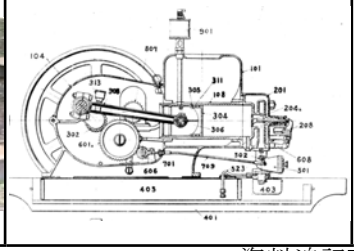
右に全体図

関連図1：1910年頃わが国初輸入の発動機

2：断面図

3：部品名

外観特色関連図等



クボタ
石油発動機

資料の所在

展示場付属倉庫

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

台帳管理番号 ・ Y205

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編